

## 奄美国立公園について

23年10月24日



## 奄美国立公園の考え方、理念

○新しい国立公園像をつくる

- ・新しい自然、風景—低山、照葉樹林帯
- ・特異な生態系—小規模モザイク型
- ・人間と密着した自然—30年で森林再生

- ①生態系型国立公園—国土の空白ブロック  
(200種のRDB植物種が生育—面積1/300)
- ②環境文化型国立公園—周辺価値から—一体的価値へ  
(生活と密着した自然、地域主義国立公園)

## 奄美群島・総括表

	総面積	人口	森林面積	農地面積	最高標高	観光客数
	ヘクタール	人	ヘクタール (%)	ヘクタール (%)	メートル	人
奄美大島	81,255	67,624	69,389 (85.4)	2,183 (2.7)	694	232,315
喜界島	5,693	8,333	1,063 (18.7)	2,210 (38.8)	204	24,556
徳之島	24,777	26,440	10,961 (44.2)	6,880 (27.8)	645	65,792
沖永良部島	9,367	14,061	959 (10.2)	4,510 (48.1)	240	40,794
与論島	2,047	5,581	82 (4.0)	1,060 (51.8)	97	37,073
群島計	123,139	122,039	82,454 (67.0)	16,843 (13.7)		400,530
	21年	21年	20年	20年		18年

鹿児島県「奄美群島の概況」等から作成

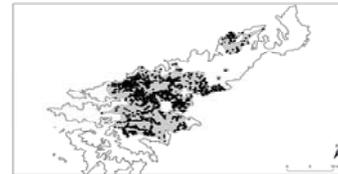
## 島嶼別植生区分面積割合

	面積 (ha)	植生による区分(%)														
		常緑広葉樹		常緑広葉樹		リュウキョウマ		常緑広葉樹		二次草原		タケ・ササ	雑林地	耕作地	市街地	その他
		自然林	二次林	群落	二次林	二次草原	群落									
奄美大島 (加計呂麻島、龍島、与論島を含む)	81,255	6.5	55.2	19.9	5.0	0.5	0.0	0.8	5.6	2.4	4.1					
喜界島	5,693	18.3	5.9	0.0	5.6	0.3	0.0	6.4	52.4	7.7	5.4					
徳之島	24,777	3.5	25.2	16.4	0.9	0.1	0.0	0.2	45.0	6.0	2.7					
沖永良部島	9,367	2.3	11.9	2.7	2.9	0.1	0.0	0.7	66.8	9.6	3.0					
与論島	2,047	1.9	3.6	0.2	0.0	0.0	0.0	2.3	64.6	22.9	4.5					

出典：第6回・第7回自然環境保全基礎調査(環境省)結果よりGISを用いて面積比を算出

小野寺・岡野作成

## 生生物保護センターが作成



奄美大島



徳之島

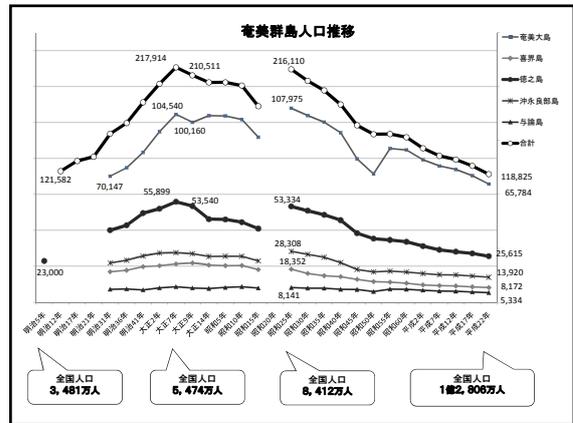
● フンの確認地点、林道調査での  
目撃地点、死体発見地点等  
以上の情報から推定した  
アマミノクロクサギの分布域

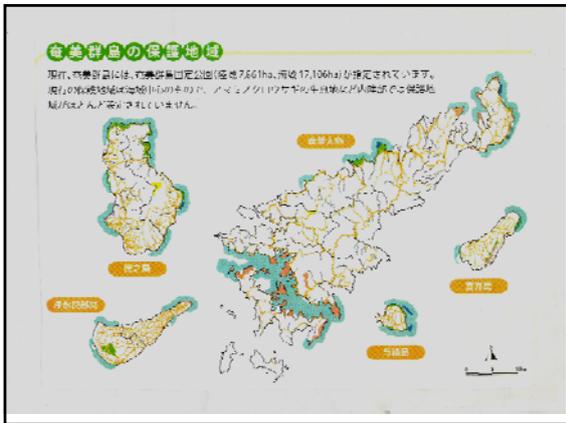
### 奄美群島の絶滅危惧植物種数

	絶滅		絶滅危惧 I 類			絶滅危惧 II 類	合計
	EX	EW	IA 類	IB 類	小計	II 類	
			CR	EN			
奄美大島	3		62	49	111	26	140
徳之島			17	26	43	35	78
沖永良部・与論島	1		8	4	12	20	33
奄美群島計 ※	3	1	71	54	125	67	196
鹿児島県	3	1	147	119	266	149	419
県下での割合 (%)	100	100	48.3	45.4	47	19.5	46.8

出典: 植田 (2001)、奄美の希少・固有植物と絶滅問題、平成12年鹿児島大学合同研究プロジェクト「希少な島嶼のための学際的研究—植物学の領域」自然保護学会  
—南西諸島における自然環境の保全と人間活動、鹿児島大学

※2島以上に共通に分布する種があることから、単純な島ごとの種数数の合計にはなっていない。

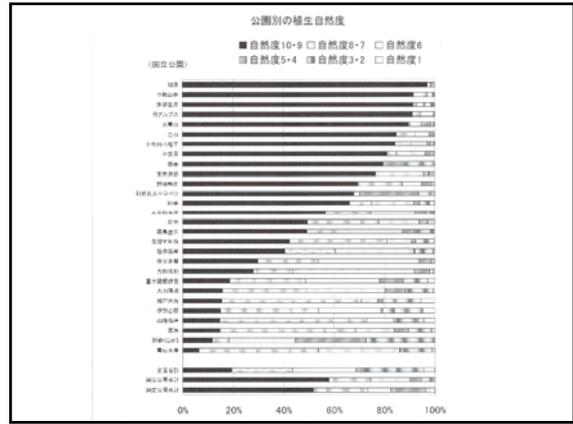




## 国立公園・法制度

- ・**国立公園法 昭和6年3月31日**  
 第1条 「国立公園ハ国立公園委員会の意見ヲ聴キ区域ヲ定メ**主務大臣之ヲ指定ス**」
- ・**国立公園ノ選定ニ関スル方針昭和6年9月29日決定**  
 第一「我が国ノ風景ヲ代表スルニ足ル**自然ノ大風景地**タルコト  
 即チ国民的興味ヲ繋ギ得テ探勝者ニ対シテハ日常体験シ難キ  
 感激ヲ与フルガ如キ傑出シタル大風景ニシテ**海外ニ対シテモ誇示**  
 スルニ足リ**世界ノ観光客ヲ誘致スルノ魅力ヲ有スルモノ**タルコト」
- ・**自然公園法 昭和37年5月16日**  
 第1条 「優れた自然の**風景地を保護**するとともに、その**利用の増進**を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資することを目的とする

年	月	名称	種別
1934(昭和9)年	3月	瀬戸内海	戦前 12ヶ所
		霧島	
	12月	阿寒	
		大雪山	
		日光	
		中部山岳	
		阿蘇	
1936(昭和11)年	2月	十和田	
		富士権	
		吉野権野	
		大山	
1946(昭和21)年	11月	伊勢志摩	
1949(昭和24)年	6月	文島湖	
	9月	上野国高原	
1950(昭和25)年	7月	秩父多摩	
	8月	熊鷹嶺	
1955(昭和30)年	3月	西海	
	6月	熊鷹嶺	
1962(昭和37)年	11月	白山	
1963(昭和38)年	7月	山崎海岸	
1964(昭和39)年	6月	知床	昭和30年代 6ヶ所
		南アルプス	
		小笠原	
1972(昭和47)年	5月	西渡	昭和40年代 4ヶ所
	10月	小笠原	
	11月	足尾銅毒	
		利根川文蔵	
1974(昭和49)年	9月	利根川文蔵	昭和60年代 1ヶ所
1987(昭和62)年	7月	南海	
2007(平成19)年	6月	尾道	
国定2087504ヘクタール(国土の約6%)			計 20ヶ所



### 自然公園土地所有別面積総括表

平成15年3月31日現在(単位:面積 ha、比率%)

種別	土地所有区分別面積(調査のみ)			合計
	国有地 (%)	公有地 (%)	私有地 (%)	
国立公園	1,277,785 62.1	259,996 12.6	520,274 25.3	2,058,095
国定公園	624,184 46.4	198,045 14.7	521,639 38.8	1,343,868
小計	1,901,969 55.9	458,041 13.5	1,041,913 30.6	3,401,963

※国定公園1,991,830ヘクタール、総計5,263,793ヘクタール。  
注)再検討の終了していない公園等土地所有別面積と公園面積合計が一致しない場合もある。

### 国立公園、今後の役割、方向性

—80年経過、根本的見直しの時期

①生物多様性保全、生態系保全の中核

- ・保護地域の拡大、保護水準の向上
- 二重構造の調整(保護と利用、国家的価値と地域的…)

②風景モデル、共生モデル

- ・成熟社会の国土再編、自然共生のロールモデル

③奄美、三陸国立公園から、見直す

- ・横並びではなく、個別解から全体を積み上げる

### 生物多様性国家戦略について

○価値転換→成熟、縮小型社会への世直し

- ・まず、生物多様性が、「柱」「基礎」との理念(あるいは決意)
- ・トレンドの変化→経済(効率)と安全、自然からの逆襲
- ・資源(国土)、所得再配分

①方向性

- ・国土全体の生物多様性水準を向上させる
- ・国土(利用)再編→人間が引いた後の国土管理、5万都市中心の再編
- ・安全のための自然保護(安全は、震災、津波以降の共通感覚)
- ・安定した国土へのソフトランディング→バランスの回復、里山が象徴

②改定の枠組み、ポイント

- ・全総計画的多様性国家戦略一全体像の提示、社会合意
- ・COP10成果の実施—保護の強化、水系水際線再生
- ・国際協力—戦略的財政、人的配置、日本モデルの提示
- ・調整官庁環境省の機能、各省連携、市民住民参加モデル